

芦田 敏文 (ASHIDA Toshifumi)

上級研究員, 博士 (農学)

2012年 農研機構 農村工学研究部門

企画管理部業務推進室企画チーム

2013年 同部門 農村基盤研究領域地域計画担当

2016年 同部門 農地基盤工学研究領域農地利用ユニット

2018年 本部 広報部広報戦略室 (併任)

2020年 農村工学研究部門

地域資源工学研究領域資源評価ユニット

2021年 同部門 資源利用研究領域

地域資源利用・管理グループ

(2011年以前は前回の「研究者の横顔」2012年3月執筆もご参照下さい)



研究者の横顔

<11年ぶりの登場です>

前回執筆時は30代ギリギリ。この間40代を過ぎ、現在50代ホヤホヤのシニア研究者です。

【広報戦略室への招集】本部広報戦略室の立ち上げ時、再度の企画管理部署への招集となりました。

1年半、要人視察のロジを主に担当したほか、百貨店とのコラボによるサイエンスカフェ形式の広報活動や、新たに創刊の「農研機構技報」の編集など・・・シブシブの異動受諾でしたが、農研機構の看板成果とその価値を知る貴重な経験となりました。他部門から招集された専門分野が異なる研究者と、忙しくもワイワイ楽しく仕事ことができました。

【近年の研究業務】第5期(2021年)以降、スマ農実証事業や脱炭素農業研究事業にて開発技術の経営評価を担当し、継続的な農業経営調査を実施しています。前回の「横顔」に書いた目標に接近すべくワクワク感を持って取り組んでいます。また採用以来長らく研究室下っ端暮らしが続きましたが、近年新人の採用が増え、ようやくその状態を脱しました。優秀な後輩研究者に刺激をもらい、また助けてもらいながら日々の業務をこなしています。



牧場での馬糞回収作業

<最近のプライベート>

【農活動】2022年春から自宅近くの農活動団体に参加して2年目となりました。有機農業を実践しており、近隣の牧場からまんのう&スコップでホカホカの馬糞をダンプに積み、ほ場で切り返してたい肥をつくっています。バリバリの肉体労働です！また、前回の「横顔」で紹介した小麦作もここで再び実践しています。

【登山・マラソン】登山は成り行きで40代後半からハマっています。マラソンはまだ記録を伸ばせると信じ、日々の鍛錬(構内ラン)にコツコツ取り組んでいます。体重・健康維持にも不可欠なルーティンとなり、「継続は力なり」の点で研究と重なるものがあります。私の有休はほとんど登山・マラソンの遠征に充てています。



2023 函館マラソン 日差しが強くてバテバテでした！